

NEWSLETTER

No.5

2001年4月26日

会長 小泉保 事務局 〒573-1001 大阪府枚方市北片鉾町16-1 関西外国語大学 澤田治美研究
室内

TEL072-856-1721 (代表) FAX 072-855-5534 E-mail: tanaka@khc.kansai-gaidai-u.ac.jp (田中廣明
宛)

URL: <http://www2.justnet.ne.jp/~hiro-tanaka/index.htm>

郵便振替口座 00900-3-130378 口座名:日本語用論学会

★会員の皆様、お変わりありませんか。
日本語用論学会Newsletter第5号をお届け
します。さる3月26日に、第12回運営委
員会が開かれました。この号は、そこで
討議された内容をもとに編集されていま
す。

★第3回大会成功のうちに終了

日本語用論学会第3回大会は2000年12
月2日(土)神戸研究学園都市大学交流セ
ンター UNITY で開催されました。参加者
は133人にのぼり、語用論に対する関心の
高さをうかがわせました。会場をお世話い
ただいた神戸市外国語大学の高原脩先生を
はじめとする諸先生方、司会の先生方、な
らびに院生の皆様に心から感謝いたします。

10時30分から12時まで4室に別れて計
14件のワークショップが行われました。各
部屋では、和やかなうちにも活発な議論が
行われました。初めての試みでしたが、次
回からも続けていこうと思いますので、よ
ろしく願いいたします。

12時からホールで第3回総会が開かれま
した。小泉会長の挨拶に続いて、事務局報
告、編集委員会報告、会計報告がなされま

した。

12時30分から15時45分までA室とB
室に別れ、各会場5件、計10件の研究発
表が行われました。どの会場も活発な質疑
応答がなされました。

16時から18時30分過ぎまで、「プロ
フェッションと語用論—語用論はいかに
「場」の行動を分析するか—(司会:高
原脩、講師:国広哲弥、大井学、樫村志郎)
と題して、シンポジウムが開催されました。
熱気に満ちあふれた充実したシンポジウム
となりました。

大会終了後、懇親会が開かれました。終
始笑い声の絶えないなごやかな会でした。
今回は、桃山学院大学での第4回大会(2001
年12月1日(土))で再会することを約し
て散会しました。

★第3回大会総括

- | | |
|----------------|------|
| 1. 参加者 | 133名 |
| 現会員 | 87名 |
| 新入会員 | 17名 |
| 当日会員 | 29名 |
| 2. 懇親会参加者 | 51名 |
| 3. 第3回大会運営委費内訳 | |

人件費	70,000 円	合計	945,408 円
謝礼	60,000 円		
交通費	52,000 円	<u>次年度繰越金</u>	<u>849,477 円</u>
会議費	44,358 円		
湯茶費	8,685 円		
<u>懇親会費</u>	<u>149,865 円</u>		
合計	384,908 円		

★2000 年度の会計報告

本学会の会計年度は毎年 3 月末日となっています。昨年度の会計報告は以下の通りです。

2000 年度（平成 12 年度）会計報告

（収入）

前年度繰越金	626,181 円
会費（194 口）	776,000 円
学会当日会員会費	68,000 円
懇親会費	135,000 円
Program & Abstracts	
売り上げ	158,000 円
『語用論研究』バック	
ナンバー売り上げ	31,500 円
学会補助	0 円
<u>普通預金利子</u>	<u>204 円</u>
合計	1,794,885 円

（支出）

印刷費	
Program & Abstracts	190,815 円
『語用論研究』第 2 号	152,565 円
学会封筒印刷代	54,180 円
郵送費	103,790 円
事務局諸費	70,683 円
人件費（学生アルバイト）	70,000 円
消耗品費	21,257 円
学会当日諸費用	71,253 円
講師旅費	52,000 円
<u>懇親会費</u>	<u>149,865 円</u>

★ 2001 年度予算

（第 3 回大会で承認されました）

印刷費

Program & Abstracts	150,000 円
語用論研究	180,000 円
郵送費	80,000 円
事務局諸経費	50,000 円
学会当日諸経費（文房具、アルバイト代、会場費、雑費、シンポジウム講師旅費、懇親会費補助など）	<u>260,000 円</u>
合計	710,000 円

★ 研究発表募集

今年度の大会は 2001 年 12 月 1 日（土）に、**桃山学院大学**（〒594-1198 大阪府和泉市まなび野 1-1）(<http://www.andrew.ac.jp>)で開催される予定です。皆さん、奮ってご応募下さい。研究発表、ワークショップの締め切り日が昨年と変わっておりますので、ご注意下さい。

★ 「研究発表」・「ワークショップ発表」募集

発表要旨：①「研究発表」の場合、A4 の用紙を用いて、余白を十分とり 1 行目にタイトルを明記し、25 字×30 行で 3 枚以内にまとめて 4 部（コピーで可）を提出する。ただし、参考文献表は枚数に含めない（注は付けないこと）。名前は別紙に書くこと。タイトル、名前、所属・職名、住所、電話番号、ファックス番号、電子メールのアドレスを明

記したものを添付する。名前には必ずふりがなを付ける。

②「ワークショップ発表」の場合、A4の用紙で、25字×30行で1枚以内にまとめて3部提出する。それ以外の点は①の「研究発表」と同じ。なお、ワークショップの場合、全体のテーマを決めてグループでの発表も歓迎します。

発表時間：①「研究発表」の場合は1人25分以内（質疑応答10分）。②「ワークショップ発表」の場合は1人15分以内（質疑応答5分）。

応募締切：①「研究発表」の場合は2001年8月31日必着とする（選考結果は1ヶ月以内に通知します）。②「ワークショップ発表」の場合は2001年9月20日必着とする（選考結果は10月中旬に通知します）。

宛先（問い合わせ）

〒573-1001 大阪府枚方市北片鉾町 16-1 関西外国語大学 澤田治美研究室 日本語用論学会事務局 TEL(072)856-1721（代）FAX(072)855-5534。(E-mail: tanaka@khc.kansai-gaidai-u.ac.jp) ①の場合は「研究発表応募」と、②の場合は「ワークショップ発表応募」と朱筆のこと。

★『語用論研究』投稿募集

現在、本学会の学会誌『語用論研究』第3号への投稿を募集しています。投稿規定は『語用論研究』創刊号(p. 122)、第2号と学会のホームページに記載されているとおりです。多数のご応募をお待ちしています（締め切りは2001年8月31日。32行×38文字（標準）でA4横書き15枚以内。上・下30mm、左・右25mmの余白をとる。原

稿の1ページ目はタイトルのあとに1行アケで氏名、そのあと2行アケで本文を続ける。例文の前後、各節の前は1行あける。原稿はそのまま写真印刷するので、鮮明に仕上がるように、文字の大きさ、濃さに注意する。ページ番号は裏面に鉛筆で記す。注は参考文献の前にまとめて付ける。参考文献の書式は、投稿規定を参照のこと。原稿は4部提出（1部は鮮明なもの）。ただし、**投稿時には原稿に名前は書かず、別紙に書く。**別紙に、氏名（ふりがな）、住所、所属、職名、連絡先電話番号、Fax番号、e-mailアドレスを記入する。なお、次号から「書評」欄も設けることになりました。詳細は、おってお知らせいたします。

送付先：〒573-1001 大阪府枚方市北片鉾町 16-1 関西外国語大学 澤田治美研究室 日本語用論学会事務局 TEL(072) 856-1721（代）FAX(072)855-5534。「投稿論文在中」と朱筆のこと。採用決定は10月末日。刊行は12月）。

研究発表、ワークショップの応募、『語用論研究』の投稿とも、会員に限るという規定がありますので、**会員でない方は応募と同時にご入会下さい。**学会のホームページを参照してください。また、他学会、他誌との二重投稿はご遠慮下さい。

★役員の一部交替

このたび、役員の一部交替がありました。

*印が新任の方です。

企画委員：*西山佑司（慶応大）、*澤田治美（関西外大）

会計監査：*中江加津彦（関西外大）

（3年間にわたり会計監査をしていただきました、加藤克美先生に感謝いたします。）

★学会費の払い込み

このニューズレターとともに 2001 年度会費(4,000 円)の振替用紙が同封されています。大会当日は納入受付が大変混雑しますので、なるべくこの用紙でお早めに振り込み下さいますようお願いいたします。振替用紙が、2 枚入っている方は昨年度分の会費が未納の方ですので、併せてお払い下さい(3 枚入っている方は一昨年度分も未納の方です。学会の会計をご理解の上、お払い下さい)。2 年連続して会費を未納されますと、会員の資格が失効します。なお、住所・所属に変更や移動のある方は、必ず振替用紙の通信欄にお書き下さい(あるいは、田中廣明宛にメールでも結構です)。

★第 4 回大会のシンポジウム

第 4 回大会のシンポジウムのテーマは「関連性理論との対話—関連性理論は語用論の新しいモデルとなりうるか?」(仮題)(司会: 西山佑司氏)とする方向で、目下、3 人の講師に交渉中です。

★ Laurence R. Horn 博士の来日公演のお知らせ。

このたび、語用論、否定の研究で著名な **Laurence R. Horn 博士**(Yale 大学)が来日されます。東京では上智大学で、関西では関西外国語大学と大阪大学で講演会が催されますので、それぞれの関係部局へお問い合わせ下さい。

1. 上智大学言語学シンポジウム 2001
Sophia Symposium on Negation
2001 年 5 月 17 日(木) 午前 10 時~午後 6 時半
上智大学(四谷)7 号館 14 階特別会議室
発表:

1. Laurence R. Horn “Lexical / Functional Pragmatics”

2. 梶田優 “Dynamic Theory”
 3. 加藤泰彦 “Comparative Syntax”
 4. 小川定義 “Romance Syntax”
 5. 渡辺明 “Minimalist Syntax”
 6. 吉村あき子 “Relevance Theory”
 7. 山梨正明 “Cognitive Linguistics”
 8. 秦野悦子 “Psycholinguistics”
 9. 宇賀治正朋 “Historical Linguistics”
- 参加費: 1,500 円(学生 1,000 円)

2. 公開講演 (Public Lectures on Negation)

上智大学中央図書館 8 階 L-812 会議室

1. 講演 1 2001 年 5 月 18 日(金) 午前 10 時半~12 時半

Laurence R. Horn “On the Nature of Negation: Markedness and Asymmetry”

2. 講演 2 2001 年 5 月 20 日(日) 午後 4 時~6 時

Laurence R. Horn “Affixing Negation: Understanding the Un-word”

参加費: 1,500 円(学生 1,000 円)

問い合わせ先: 上智大学国際言語情報研究所 (Tel/Fax: 03-3238-3493)

(以上、『英語青年』2001 年 4 月号より)

3. 関西外国語大学国際文化研究所第 99 回例会

日時: 2001 年 5 月 24 日(木) 午後 3 時より

会場: 関西外国語大学本館 2 階多目的ホール(京阪電車枚方市駅下車外大前行きバスで 15 分)

講演者と講演題目

Laurence R. Horn “On the Nature of Negation: Markedness and Asymmetry”

連絡先: 関西外国語大学 田中廣明 (tanaka@khc.kansai-gaidai-u.ac.jp / TEL 072 (856)1721 (代表)) (無料)

4. 大阪大学待兼山ことばの会

日時: 2001 年 5 月 26 日(土) 午後 2 時より

会場: 大阪大学文学部(阪急石橋駅下車/モノレール柴原駅下車)

講演者と講演題目

吉村あき子(奈良女子大) “Negation”

Laurence R. Horn “On Anything Whatever: Free Choice and Free Relatives”

連絡先：大阪大学文学部英語学研究室
Tel/Fax 06(6850)5115 (無料)

★ 学会のホームページ開設

このたび、日本語用論学会では、以下の URL で公式ホームページを開設いたしました。投稿規定、入会の方法など詳しくは以下をご覧ください。

<http://www2.justnet.ne.jp/~hiro-tanaka/index.htm>

★ 語用論関係の新刊書紹介

今井邦彦 (2001)『語用論への招待』東京：大修館書店。(関連性理論への入門。『英語教育』2001年5月号に西山佑司氏の書評あり。)

Sweetser, E. (著) 澤田治美 (訳) (2000)『認知意味論の展開—語源学から語用論まで—』東京：研究社。(認知言語学と語用論の訳書。「意味変化」「多義性」「語用論的あいまい性」についてメタファーやグライスの理論を用いて统一的に説明することに成功しています。『英語教育』2001年5月号に書評あり。)

Yule, G. (著) 高司正夫 (訳) (2000)『ことばと発話状況—語用論への招待—』東京：リーベル出版。(語用論のテキストとして最適。)

Tanaka, Noriko (田中典子) (2001) *The Pragmatics of Certainty: Its Realisation and Interpretation in English and Japanese*. 横浜：春風社(会話においてはなぜ意図があいまい (uncertain) にされるのか。テレビトークショーや日常会話を基に分析される、戦略的語用論。「暗黙の了解」はどのようにし

て伝わるのか。「誤解」を避けるにはどうしたらよいか。「誤解」を逆手に取る会話法とは。「共感」を生む会話とは。日常的な場面に即した「あいまいさ」の実践的分析。春風社の紹介メールより)

Levinson, Stephen (2000) *Presumptive Meanings: The Theory of Generalized Conversational Implicature*. Cambridge, Ma.: The MIT Press.

Marmaridou, Sohia S.A. (2000) *Pragmatic Meaning and Cognition*. Amsterdam: John Benjamins.

Kadmon, Nirit. (2001) *Formal Pragmatics: Semantics, Pragmatics, Presupposition, and Focus*. Oxford: Blackwell Publishers.

Mey, Jacob L. (2001) *Pragmatics: An Introduction*. (Second Edition) Oxford: Blackwell Publishers

(語用論関係の新刊書をご紹介下さい。できれば、宣伝文句付きで。この欄で取り上げます。なお、田中典子氏の著作は、春風社よりご紹介をいただきました。)

★ 次回の Newsletter より、語用論に関する forum 欄を開設したいと思います。短い記事で結構ですので、これはと思う紹介、語用論的な記事などがありましたら事務局までお寄せ下さい。

(事務局 澤田治美・田中廣明記)

メールでの連絡は、

tanaka@khc.kansai-gaidai-u.ac.jp (田中廣明宛) へ。ただし、研究発表へのメールでの応募はご遠慮下さい。